

2025年度 授業コード: 21108800

授業科目	*診療関連技術論演習				実務家教員担当科目	○	
単位	2	履修	必修	開講年次	2	開講時期	前期
担当教員	隅田 由加里/幸 史子/梶原 江美/長崎 恵美子/中島 紀江/西田 彩子						
授業概要	<p>人は疾病の発症や障害によって様々な診療（検査・処置・治療）を受ける。看護師はこの診療の補助業務の実践者として、医師の指示に基づき、患者の体内にカテーテルや管・針類を挿入する、薬剤や酸素を投与する、創傷を管理するなど、侵襲を伴う診療に伴う看護技術を正確に実施することが求められる。さらに技術提供だけでなく、実施前後の観察やアセスメントを通して、提供した技術が安全に遂行されているか異常の早期発見に努める重要な役割も担う。よって本授業では、科学的根拠に基づく診療に関連する技術を安全・安楽に提供するための基本的知識（目的、根拠、留意点等）・技術・態度の修得を目指す。</p> <p>具体的には、既習の知識である形態機能学も活用しながら、「滅菌操作」「創傷管理」「非経口栄養摂取法」「浣腸・排便、導尿」「一時的吸引、酸素吸入療法」「体温管理」「与薬・輸血」「静脈血採血」を単元として構成する。</p> <p>以上のことは、実務家教員として大学病院や中核的基幹病院の複数の部署で、様々な状況にある患者に診療関連技術を提供してきた経験もつ教員が担当する。</p> <p>なお、本科目は1回に2コマ連続で実施します。</p>						
授業形態	対面授業		授業方法	Google classroom の活用 アクティブラーニング（講義⇒演習⇒ディスカッション⇒グループワーク）の活用 動画の活用			
学生が達成すべき行動目標							
標準的レベル	<p>診療関連技術を実践するための基本的知識を修得し、安全な診療関連技術について自身の考えを説明できるとともに、診療関連技術を実践する看護専門職の責務を模索することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 安全かつ正確に診療関連技術を実践するために必要となる基本的知識を、意義、目的、方法、留意点の観点から整理し修得できる。 既習の知識や科学的根拠を活用しながら、診療関連技術の実施是非と実践によるリスクを論理的に思考・判断できる。 検査・処置・治療を受ける対象者の気持ちを理解し、診療関連技術の根拠と留意点を遵守して安全・安楽に実施できる。 看護専門職者としてふさわしい誠実な態度について考え、授業に生かすことができる。 安全に診療関連技術を実践するための根拠を探求する姿勢を身につけている。 						
理想的レベル	<p>標準レベルに加え、自身の学びと考えを論理的に科学的根拠を踏まえ記述できるとともに、診療関連技術を実践する看護専門職の責務を模索し自己形成を深めることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 安全かつ正確に診療関連技術を実践するために必要となる基本的知識を、意義、目的、方法、留意点に加え、疾患や状況に合わせて適切な器具の選択、適応、禁忌、観察項目などを追加するなど理解を促す工夫をして整理できる。 既習の知識や科学的根拠を活用しながら、診療関連技術の実施是非と実践によるリスクを論理的に思考・判断し記述できる。 						

<p>3. 検査・処置・治療を受ける対象者の気持ちを理解し、診療関連技術の根拠と留意点を遵守して安全・安楽に実施できる。また、不測の事態への対応を臨機応変に実施できる。</p> <p>4. 看護専門職者としてふさわしい誠実な態度について考え、リーダーシップ・メンバーシップを発揮して建設的に授業に参加することができる。</p> <p>5. 安全に診療関連技術を実践するための根拠を探求する姿勢を身につけ、自身の考えを簡潔明瞭にまとめ述べることができる。</p>											
評価方法・評価割合											
評価方法			評価割合（数値）				備考				
試験			65				定期試験で実施する				
小テスト											
レポート			15				レポートテーマは授業内で伝えます				
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物			15				課題、ポートフォリオの提出				
その他			5				講義・演習への参加姿勢				
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	-	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	NU11205J
学習課題（予習・復習）										1 回の目安時間（時間）	
<p>予習・復習：該当する看護技術の動画視聴とテキストを読む。該当する看護技術の「基礎看護学まとめノート」に取り組む。指定された看護技術の課題に関して調べ学習等を行い自身の考えを整理しポートフォリオにまとめる。</p>										1	
授業計画											
第 1 回		<p>主テーマ：感染予防の技術①（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業ガイダンス ・ 感染と感染予防策の基礎知識（「看護技術論演習」「感染と免疫」の振り返りを含む） ・ 感染源への対策（洗浄、消毒、滅菌） ・ 感染経路への対策（滅菌物の取扱い、隔離法） ・ 清潔・不潔を考える 									
第 2 回		<p>主テーマ：感染予防の技術①（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業ガイダンス ・ 感染と感染予防策の基礎知識（「看護技術論演習」「感染と免疫」の振り返りを含む） ・ 感染源への対策（洗浄、消毒、滅菌） ・ 感染経路への対策（滅菌物の取扱い、隔離法） 									

	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔・不潔を考える
第3回	<p>主テーマ：感染予防の技術②（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：隅田/長崎/中島/西田/梶原/幸</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包装された滅菌物の取扱い ・滅菌物の渡し方 ・滅菌手袋の着脱
第4回	<p>主テーマ：感染予防の技術②（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：隅田/長崎/中島/西田/梶原/幸</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包装された滅菌物の取扱い ・滅菌物の渡し方 ・滅菌手袋の着脱
第5回	<p>主テーマ：創傷管理技術（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防の技術演習を振り返る ・創傷管理の基礎知識（「形態機能学【皮膚】の振り返りを含む） ・創傷の観察 ・創傷の処置（ドレッシング剤、包帯、創傷処置の方法） ・褥瘡の評価と処置（【褥瘡予防】の振り返りを含む）
第6回	<p>主テーマ：創傷管理技術（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防の技術演習を振り返る ・創傷管理の基礎知識（「形態機能学【皮膚】の振り返りを含む） ・創傷の観察 ・創傷の処置（ドレッシング剤、包帯、創傷処置の方法） ・褥瘡の評価と処置（【褥瘡予防】の振り返りを含む）
第7回	<p>主テーマ：栄養摂取の援助技術（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経腸栄養 ・経鼻経管栄養法のリスクを考える

	<ul style="list-style-type: none"> ・中心静脈栄養 ・末梢静脈栄養
第8回	<p>主テーマ：栄養摂取の援助技術（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経腸栄養 ・経鼻経管栄養法のリスクを考える ・中心静脈栄養 ・末梢静脈栄養
第9回	<p>主テーマ：排泄の援助技術①（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：中島/隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する処置（浣腸、摘便、一時的導尿）
第10回	<p>主テーマ：排泄の援助技術①（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：中島/隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する処置（浣腸、摘便、一時的導尿）
第11回	<p>主テーマ：排泄の援助技術②（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：中島/隅田/長崎/西田/梶原/幸</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時的導尿
第12回	<p>主テーマ：排泄の援助技術②（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：中島/隅田/長崎/西田/梶原/幸</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時的導尿
第13回	<p>主テーマ：排泄の援助技術③</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：中島/隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄の援助技術演習を振り返る ・既習の知識と演習での学びを活用して「持続的導尿を実施している患者」の観察ポイントとリスクを考える
第14回	<p>主テーマ：救命救急処置技術</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p>

	<p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救命救急処置の意義と目的 ・救急蘇生法 ・止血法
第15回	<p>主テーマ：呼吸・循環を整える技術①（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：西田/隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸の意義とアセスメント（「形態機能学【呼吸器系】の振り返りを含む） ・呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 ・気道分泌物の排出の援助 ・酸素吸入療法 ・体温管理・保温の援助
第16回	<p>主テーマ：呼吸・循環を整える技術①（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：西田/隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸の意義とアセスメント（「形態機能学【呼吸器系】の振り返りを含む） ・呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 ・気道分泌物の排出の援助 ・酸素吸入療法 ・体温管理・保温の援助
第17回	<p>主テーマ：呼吸・循環を整える技術②（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：西田/隅田/長崎/中島/梶原/幸</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酸素吸入 ・鼻腔内吸引
第18回	<p>主テーマ：呼吸・循環を整える技術②（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：西田/隅田/長崎/中島/梶原/幸</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酸素吸入 ・鼻腔内吸引
第19回	<p>テーマ：呼吸・循環を整える技術③</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：西田/隅田</p> <p>主な授業概要</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸・循環を整える技術演習を振り返る ・既習の知識と演習での学びを活用して「呼吸を整える援助を実施している患者」の観察とリスクを考える
第20回	<p>主テーマ：与薬・輸血の技術①</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸血療法
第21回	<p>主テーマ：与薬・輸血の技術②（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与薬に関する基礎知識 ・経口与薬法 ・外用薬の皮膚・粘膜適用 ・注射法
第22回	<p>主テーマ：与薬・輸血の技術②（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与薬に関する基礎知識 ・経口与薬法 ・外用薬の皮膚・粘膜適用 ・注射法
第23回	<p>主テーマ：与薬・輸血の技術③</p> <p>授業形態：演習</p> <p>担当：隅田/長崎/中島/西田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：点滴静脈内注射（点滴の準備と滴下調整）
第24回	<p>主テーマ：検査に伴う看護技術①</p> <p>授業形態：講義とグループワーク</p> <p>担当：隅田</p> <p>主な授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査に伴う看護師の役割 ・主な検査の概要 ・血液検査とは ・静脈血採血の方法
第25回	<p>主テーマ：与薬・輸血の技術④（2コマ連続で行う）</p> <p>授業形態：演習</p>

	担当：隅田/長崎/中島/西田/梶原/幸 主な授業概要 ・皮下注射と筋肉内注射（注射の準備と投与）
第26回	主テーマ：与薬・輸血の技術④（2コマ連続で行う） 授業形態：演習 担当：隅田/長崎/中島/西田/梶原/幸 主な授業概要 ・皮下注射と筋肉内注射（注射の準備と投与）
第27回	主テーマ：検査に伴う看護技術②（2コマ連続で行う） 授業形態：演習 担当：隅田/長崎/中島/西田/梶原/幸 主な授業概要 ・静脈血採血
第28回	主テーマ：検査に伴う看護技術②（2コマ連続で行う） 授業形態：演習 担当：隅田/長崎/中島/西田/梶原/幸 主な授業概要 ・静脈血採血
第29回	主テーマ：与薬・輸血の技術⑤ 授業形態：講義とグループワーク 担当：隅田 主な授業概要 ・与薬・輸血の技術演習を振り返る ・既習の知識と演習での学びを活用して「与薬を実施している患者」の観察とリスクを考える
第30回	主テーマ：診療関連技術論演習のまとめ 授業形態：グループワーク 担当：隅田 主な授業概要 ・事例を用いて行う ・診療関連技術の提供が患者に与える影響を既習の知識と本科目における学びを活用して思考する ・事例の診療関連技術は実施可能かどうかを科学的根拠から判断する ・安全に診療関連技術を実施するために求められる看護専門職の責務と、他者との連携・協働について思考する
テキスト	・新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ（メジカルフレンド社） ・新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（メジカルフレンド社） ・新体系看護学全書 基礎看護学まとめノート
参考図書・教材 /データ	・新体系看護学全書 基礎看護学① 看護学概論（メジカルフレンド社） ・新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論（メジカルフレンド社） ・深井喜代子編著：基礎看護技術ビジュアルブック 手順と根拠がよくわかる（照林社）

<p>ベース・雑誌等の紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 深井喜代子監修：ケア技術のエビデンス（１）（２）実践へのフィードバックで活かす（へるす出版） ・ 藤本真記子ら監修：看護技術がみえる① 基礎看護技術（メディックメディア） ・ 佐藤久美ら監修：看護技術がみえる② 臨床看護技術（メディックメディア） ・ 山口瑞穂子編著：看護技術 講義・演習ノート 第2版 下巻 診療に伴う看護技術編（サイオ出版） ・ 任和子ら編集：根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版（医学書院） ・ 佐藤達夫：根拠がわかる注射のための解剖学（インターメディカ） ・ 佐藤弘明：看護の現場ですぐに役立つ「輸液のキホン」（秀和システム） ・ 公益財団法人日本医療機能評価機構 https://www.med-safe.jp ・ PMDA 独立行政法人 医薬品医療機器総合情報 https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/medical-safety-info
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>	<p>課題のフィードバックは授業内で行う。</p> <p>定期試験のフィードバックは成績発表後に Google クラスルームを活用して行う。</p>
<p>学生へのメッセージ・コメント</p>	<p>医療は日々進歩し新しい治療法が開発されています。そのような中、臨床現場では看護師は医師の代行者として様々な診療に関連する看護技術を提供しています。しかし皆さんのような初学者の方が、初めて診療関連技術を演習するのはとても難しく、また怖さを感じると思います。このためどうしても技術手順の習得に意識が集中しがちです。しかし診療関連技術を提供するにあたって最も大切なことは、患者の安全を守ることです。この患者の安全を死守するためには、手順だけでなく「なぜその手順（方法）なのか」という目的や根拠、理由をしっかりと理解することがとても重要です。その知識が医療事故や感染などのリスクから患者を、そして自分自身を守ってくれます。</p> <p>よって、以下のポイントを活用して学習を進めてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「どうしてこれを行うの?」「なぜ、この方法なの?」等の疑問をもち、その疑問を解決（根拠を理解）しながら学びを深めてください。 2. 診療関連技術は患者の体内に針やカテーテルを挿入し、さらに薬物や酸素を投与するなど患者に侵襲を与える看護技術でもあります。これらを安全に実践するためには、1年次から2年次にかけて学修した既習の知識（「形態機能学」「感染と免疫」「生活援助技術論演習」「疾病学総論・各論」「薬理学」）の想起が必要となりますので、復習（振り返り）を必ず行い、その振り返りはポートフォリオにまとめ、授業に参加してください。 3. 「診療」は事故のリスクを伴います。そのため各診療関連技術に関して「医療事故」の視点を持ち、その防止対策を思考していきましょう。 4. 「診療」は感染のリスクを伴います。そのため各診療関連技術に関して「清潔と不潔」を常に意識して学びを深めましょう。 6. 診療関連技術論での学びを、後期からの「看護のための臨床検査」「各領域の看護学方法論」などの科目と関連させることでより理解が進みますので、後期もこの学びを活用して継続的に学修を深めてください。